



半世紀に渡る揺るぎない合格実績と包括的な業界支援

株式会社建築資料研究社は1969年に建設関連の出版事業を創業して以来、多くの皆様にご愛顧頂き、2024年8月に創立55周年を迎えます。創業者/馬場瑛八郎は日本大学工学部建築学科を卒業後、設計事務所に勤めながら苦労して一級建築士を取得し、「これから建築士取得を目指す方々に同じ苦労をさせたくない」その思いから資格受験予備校「日本建設実務学院」(現在の日建学院)が設立されました。1993年～2022年の30年間で合格した1級建築士146,291人中76,529人が日建学院の卒業生でありその占有率は52.3%になります。

仕事を続けながらの受験勉強は決して楽なことではありません。仕事と勉強の両立はつらい事も多く、学習の継続は大変です。しかし、それを乗り越え合格できる環境が日建学院にはあります。日建学院で学び合格できた喜びを一人でも多くの方に経験して頂きたいと思えます。

資格取得のみならず、「CONFORT」「住宅建築」等の建築関係の書籍の販売。企業支援として建築会社に特化した新入社員研修や建築関係のCADソフト等の販売。学生支援として国公立学校等への教材の販売・提供や資格取得支援や就活支援。雇用支援として厚生労働省が管轄する再就職の為の職

業訓練の実施等、包括的な業界の支援を行っております。

この業界のトップランナーとして駆けつけてきた実績と創業社の思いを受け継ぎこれからも社会に貢献できる企業であり続ける為に、なにより受講生ファーストで頑張る人々を全力でサポートし続けていく所存です。



顧客満足度 No.1
総合満足度 No.1

外部評価も
実績も

建築士講座



日本マーケティングリサーチ機構 調査概要:2021年9月期_顧客満足度調査

50th Anniversary

建築確認検査、住宅性能評価、
住宅かし保険、構造計算適合性判定、
省エネ適合性判定などの業務を行っています。

一般財団法人 **愛知県建築住宅センター**

CONTENTS

法人協力会通信 67

(株)建築資料研究社/日建学院 三重支店 —— 表紙裏
藤原 徹

地域会だより ————— 1

連載【隔月 全6回】建築とデジタル技術の承前啓後
第6回 - 承前啓後への試み(後編) - ————— 2
水谷 晃啓

愛知発「建築家の仕事」2023
「建築家の仕事」来た道、行く道。————— 4
鈴木 賢一

自作自演 260
極私的稀覯本蔵書票3. ————— 6
池澤 邦仁

NPO法人世界劇場会議名古屋の活動 ————— 6
細井 昭男

保存情報 第266回
データ発掘: 上社鎮護 日吉神社 ————— 7
中澤 賢一

編集後記 ————— 7
伊藤 恭行・恒川 和久

愛知発: 事業委員会報告 一寸格子ワークショップ
猪高小学校建築教室 ~ひなん時の「くつろぎハウス」をつくらう~ — 8
山田 浩史 笹野 直之 金山 美登利 成田 靖司

地域会だより 今後の予定

■JIA東海支部

・3/22 第9回支部役員会

■JIA静岡地域会

・3/7 静岡地域会役員会の開催(WEB同時開催)
・3/7 第2回JIA塾(能登半島地震 地震直後の実情報告、地域の文化財の状況)

■JIA愛知地域会

・3/1 企業PR会
第9回役員会
・3/15 ウェビナー・伊藤和志氏講演会
『コンペ・プロポーザルの未来 ~ドイツの建築事情から学ぶ~』
・3/29 第10回役員会
CPD研修会

■JIA岐阜地域会

・3/8 JIAの窓④ 研修旅行 金沢
・3/19 第11回役員会 18:30~20:30

■JIA三重地域会

・3/8 第8回役員会、第7回例会
会員研修会④「森羅万象匠塾」(対面、オンライン併用)

表紙 常滑の景色……⑫「まつり」

この1年をとおして一番の風景はなんだろうと考えてみた。

まつりの見せ場の一つ、「木遣り」の場面。奥条地区の山車祭りでは、常石神社に木遣りを奉納する。

今頃、春の本番に向けて世代を超えた準備風景が目に見えてくる。

※この地区まつりは4月第2土日(詳細はHPなどで確認し見学してください。)



浅井 裕雄 (JIA愛知)
裕建築計画

承前啓後への試み(後編)

□コンピュータとの対話が 可能にするもの

「承前啓後への試み」として連載後半にあたる第4回から、シミュレーションとデザインの連動および繰り返し操作によるコンピュータとの対話を用いたデザインスタディ手法を紹介してきた。そこではシミュレートされる結果を観察しながら、デザイン入力を繰り返すことで、それまで捉えられなかった事物のしくみや変化の特性を理解する“目”のような感覚が涵養されることを示した。こうした“目”が養われる事象は、デジタル技術に限らず、科学技術全般に見られる。エドワード・マイブリッジによって撮影された連続写真は、視覚的に把握することができなかった「走る馬」の脚の運びのしくみを捉える“目”を誕生させた。その“目”が社会的に養われて以降、絵画における「走る馬」の姿かたちの描写は一変した。

こうした技術的な進歩は個人や社会の身体的感覚の拡張の機会となってきた。チャールズ・イームズとレイ・イームズの夫妻がIBMの依頼を受けて作成した科学映画の「Powers of Ten: A Rough Sketch」は、技術を通して把握することができるようになった物質の大きさをシームレスに比較して見せることで、技術によって人々や社会の見る目が養われ、身体的感覚が拡張していくことを鮮やかに示した。余談となるが、家具デザイナーとして有名なイームズ夫妻は、この科学動画以外にもIBMと多く仕事をしている。ニューヨークのIBM館で行った展示を書籍化した「コンピュータ・パースペクティブ 計算機創造の軌跡(ちくま学芸文庫)」は、解析機関から戦後の巨大電子計算機が登場するまでのコンピュータ

の軌跡が辿れる良書で、建築分野のみならず社会全般のデジタル技術応用の発展過程の理解には欠かせないのでぜひ参照して欲しい。

□デジタル技術によって 制御可能なもの

自然界が生み出すものには、一つとて同じものが存在しない。自然素材である天然木は、曲がっていたり節があったりと、製材あるいは人工的に作られるエンジニアリングウッドと比較しノイズが多く、デジタル技術で扱いづらい部類の素材である。今日の主流となっているプレカットがそうであるように、機械を用いた製材技術の発展は規格化とともにあった。エンジニアリングウッドの普及は性能の規格化、木材を所定の要求水準を満たすバラつきのない素材として扱うことを可能とするデジタル技術を基盤とした生産手法が推し進めてきた。このように、自然素材を人工的に扱う際は、技術を用いてノイズを消去し、均質な“モノ”として扱うことで規格化される場合が一般的である。

連載の最後となる今回は、現在進行形で取り組んでいる、コンピュータとの対話を通して天然の枝木を不均質なまま造形物として用いる方法、素材自体の持ち味を活かしたデザインを創発するためのスタディを紹介する。柱をはじめ多くの部材が丸太のままで作られる草庵茶室のよう

な空間を、デジタル技術を援用しながらデザインし、これまでノイズとしてキャンセルしていた要素を「侘び」として扱うためのデジタル技術の獲得、その“目”を養うことを目指す。この連載を通して主張してきた、シミュレーションとデザインの連動、フィードバック回路の構築を体現したものとして紹介したい。

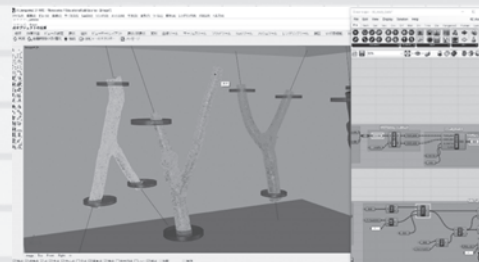
□デジタルコピーと デザイン支援ツールの開発方法

ここでは枝木を3Dスキャニングによりデジタルコピーし、それを3DCAD空間内にインポートし、花を生けるようなプロセスで造形物の形態をスタディする方法を示す。図1に示すように、水平面となる板材を支える部材として不均質な曲がった枝木を利用するために、枝木の配置に応じたエクステンションとジョイント、アタッチメントが自動生成されるデザイン支援ツールをつくった。

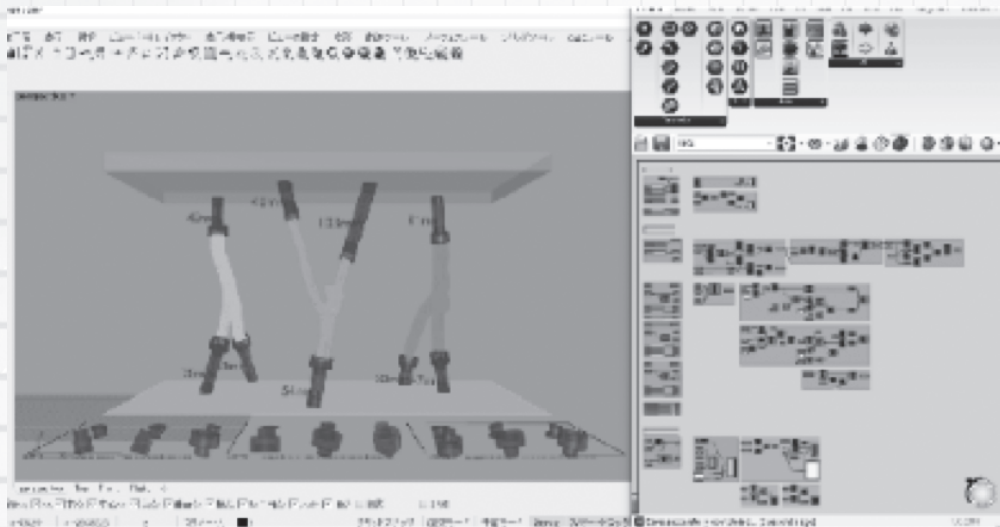
支援ツールのシステム構築はこれまでに紹介した事例同様にRhino + Grasshopperで行った。枝木の3Dモデルをデジタルコピーする方法には、木皮の凹凸等の読み取りが得意なフォトグラメトリを用いている。図2に示すように、デジタルコピーした枝木の3DモデルをRhino空間内に取り込み、マウス操作を用いてその配置位置や角度を自由に變形できるようにしたうえで、枝木の3Dモデルに対し



(図1) 枝木が水平材を支持する造形物



(図2) 各ベクトルが生成された状態



(図3) シミュレーションが実行された状態

でジョイントを生成するための基点をその3Dモデルの端部に配置する。基点を中心にRhino空間Z軸方向を高さとした円柱を生成し枝木の3Dモデルと重なるオブジェクトを算出する。そのオブジェクトの底面と上面の中心点を結んで該部分のモデル中心軸を求め、ジョイントの生成箇所及び生成ベクトルの方向を抽出した。抽出したベクトルの方向に対して、a. 枝木末端の断面直径、b. ジョイントの長さ、c. 紙管とのかぶり長さ、d. 枝木を覆う肉厚、e. 紙管の内径外径をパラメータとして、枝木末端部の基点からGrasshopperによってモデリングが実行される。

□枝木の造形物にける

形態スタディの目的と方法

枝木の造形物を構成する要素は①土台となる平面、②水平面となる板材、③枝木、④エクステンション(紙管)、⑤ジョイントおよびアタッチメントである。①・②の土台と板材の間に主要素である③枝木を如何に配置するか、その造形的なバランスを調整し意図する形態を創造する

ことを目指す。④、⑤は、①～③の主部材から構成される造形を成立させる補助部材として自動生成される。この④、⑤に求められるのは、①、②および③それぞれの取り合い、特に主部材である③との関係から生成される納まりの美しさであり、ディテールの生成ルールをあらかじめデザインする必要がある。つまり、生け花を挿すように主部材からなる造形をインタラクティブにデザインするために、デザインのプロセスと生成ルールの設計を行っている。図3に示すように、3DCADのビューポートに表示される①～⑤の構成要素全体の美観を視覚的に確認しながら意図する造形となるまで配置の調整を行うことができ、①～③の配置を調整する度にその構成を成立させるための④、⑤が自動に生成されるため、操作を行う者は①～③の配置関係のデザインにのみ集中することができる(図4のQRコードにある動画からその手順、実行の様子をぜひ参照して欲しい)。このように枝木の造形を支える要素の生成を自動化することで、ジョイントとの取り合いといった納まり

りの意匠性を含む全体形状を即時的に確認しながら、コンピュータと対話を通して形態を決定することができるようにした。

□私的承前啓後への試みの行方

「建築とデジタル技術の承前啓後」と題し、前半は1960年代からはじまった我が国の建築とデジタル技術の関係について述べた。後半はそれを継承しつつ現代の技術で発展させていくことを目指した自身の試みについて紹介した。繰返しとなるが、デジタル技術の承前啓後において「なにが正しく、なにが正しくないか」という議論よりも、そこでの目的に対してデジタル技術がどう作用しているか、という観点から判断する方が本質的である。シミュレーションとデザインの連動、フィードバック回路の構築が最大の関心事であることを、自身のデジタル技術の承前啓後の試みを通して示した。コンピュータとの対話によって、“見る目”を養い身体感覚を拡張しながらそれをデザインに用いていく、というテーマに対して、今後もチャレンジしていきたい。



(図4) 形態スタディ中の様子がわかる動画へのリンク

水谷 晃啓 MIZUTANI Akihiro

建築家。M2A主宰。豊橋技術科学大学 准教授。博士(工学)。1983年生まれ。2013年芝浦工業大学大学院博士(後期)課程修了。2009年限研吾建築都市設計事務所。2010～14年SAITO ASSOCIATES。2013年芝浦工業大学博士研究員。2014年～豊橋技術科学大学、東京電機大学、芝浦工業大学非常勤講師。

豊橋技術科学大学大学院 准教授
M2A主宰
博士(工学)・一級建築士

水谷 晃啓



「建築家の仕事」来た道、行く道。

JIA東海支部愛知地域会が名古屋市立大学芸術工学部で開講する「建築家の仕事」は、今年で8年目となった。受講生は3年生46名、4年生6名の合計52名。建築都市デザイン学科36名、産業イノベーションデザイン学科14名、情報環境デザイン学科2名で、建築以外の学生も受講しているのが特徴である。

私は川口亜希子さんから取りまとめ役を引き継ぎ、1回目のガイダンスを担当した。JIAの概要と活動、建築家と建築士の違い、建築設計の流れ、建築設計の仕事の広がりを話した。以降、毎回異なる講師による建築家のリアルな仕事を優しい眼差しとともに聴講できることをアピールした。

第2回から13回まで12組の建築家に、自主的に話をさせていただいたことで、講師の熱量が伝わり、結果として個性が発揮されている(表1)。

建築家は何を語ったか

12組の建築家は何を学生に語ったのか、私自身の裁量でその内容の広がりを眺めてみた。図1に、どんな対象を扱ったか(コトモノの軸)と、どんなメッセージが込められたか(ガクセイシャカイの軸)をクロスさせた事象にキーワードをプロットしてみた。

対象としてのモノは、技術やデザインなどを通じ直接的に建築とその周辺を扱っている。社会変化と構造デザイン、住宅と家具・庭園などである。一方コトは、建築を舞台に繰り広げられる人の活動、まちづくり、市民、商店街などをキーワードとしている。学校や市庁舎などの公共施設、市民参加のまちづくり、設計プロセスと建築家、商店街の活性化は、学生たちも目を輝かせる。

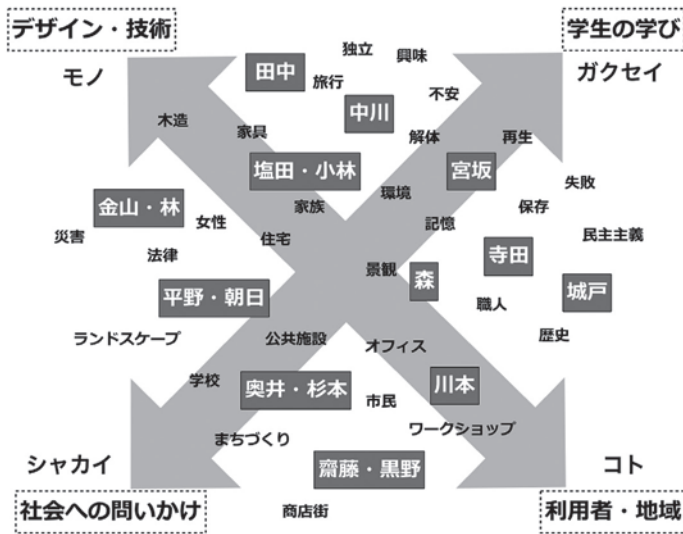
メッセージについては、社会課題へ目を向けさせる方向と、学生の今後の進路



に寄り添うものを見てとることができた。前者では、災害やまちづくり、商店街、庭やランドスケープなど、現代的な課題を持つ対象が提示され、建築周辺への興味関心をも導いている。一方、自らの学生時代を振り返りながら、ストレートに学生へのメッセージが投げかけられている。国際的な視野、興味関心へのこだわり、建築家の社会的責任、迷いや不安など、厳しくも建築家の先達としてのアドバイスが向けられた。

(表1)「建築家の仕事」2023の講師と授業内容

	日時	テーマ	講師
第1講座	9月29日	JIAと建築家の仕事	鈴木賢一 (名市大)
第2講座	10月6日	「人生を変える(かもしれない!)建築との関わり方」	田中義彰 (TSCアーキテクト)
第3講座	10月13日	家具と建築	塩田有紀 (塩田有紀建築設計事務所) 小林啓伯 (スニッカ)
第4講座	10月20日	名古屋を拠点とする設計事務所の仕事と私	寺田智之 (黒川建築事務所)
第5講座	10月27日	地域や街で活躍する建築家の仕事	齊藤正吉 (藤正吉建築研究所) 黒野有一郎 (建築クロノ)
第6講座	11月3日	経験と建築	森 哲哉 (森建築設計室)
第7講座	11月10日	建築と庭	平野恵津泰 (ワーク・キューブ) 朝日宏和 (ベガータックス)
第8講座	11月17日	どうして建築家になろうと思ったのか	中川竜夫 (アーキサイエ建築設計事務所)
第9講座	11月24日	仕事のお作法	城戸康近 (城戸武男建築事務所)
第10講座	12月1日	地域資源を活かしたまちづくり	川本直義 (伊藤建築設計事務所)
第11講座	12月8日	構造設計事務所の活動	金山美登利 (モウ構造設計) 林希代子 (希設計)
第12講座	12月15日	設計っておもしろい! (奥井) 社会や環境とをつなぐ設計 (杉本)	奥井康史 (石本建築事務所) 杉本憲治 (梓設計)
第13講座	12月22日	廃墟を資産に変える	宮坂英司 (アトリエ創一級建築士事務所)
第14講座	1月12日	受講生と講師の対話その1	全員
第15講座	1月19日	受講生と講師の対話その2	全員



(図1) 授業でとり上げられた話題



(図2) 受講生がレポートに記載したキーワード

学生は何を感じ考えたか

受講生には、13回の講義を踏まえた上で、「将来の仕事に向けて考えている夢」、「現在興味を抱いているテーマ」、「社会に向けて問いかけたいこと」についてレポートを求めた。A3判1枚に自由に表現させた。学生のレポートを一覧すると、これら3つの問いかけに対するリアクションは、相互に密接に関連すると判



断できた。そこで、同様にどんなキーワードが表現されたかをグルーピングしてみた(図2)。なお、最後の2回ではレポートを基にして受講生と講師陣のグループ対話を行った。

まずは、現代的な社会課題、地球規模の環境課題についての一群の言葉を見つけてことができる。能登半島地震発生直後だったこともあり、災害や避難、復興の言葉は数多く挙げられた。安全や平和への言及もある。またこれからの時代を予感させるジェンダーフリーやウェルビーイングなどの考え方への興味が示されるとともに、3Dモデリング、AI、光合成建築といった新しい技術についてのレポートもあった。受講生の多くは研究室への配属が決まりゼミをスタートさせてお



り、それぞれの分野の研究テーマへの関心は強い。この先の将来建築分野、デザイン分野で働くことの期待(職能と責任)と不安(収入)への表明もみられた。

おわりに

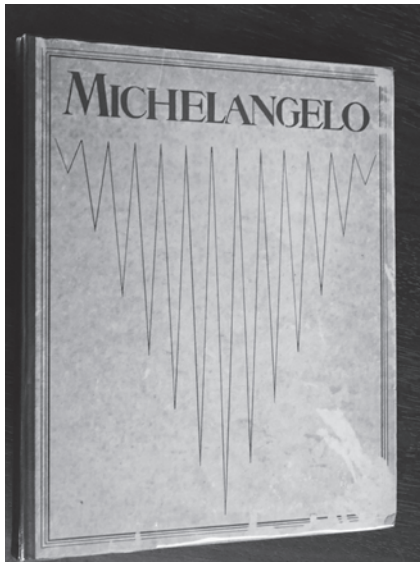
この授業の底辺には、先行きの見えない社会に飛び出そうとする学生へのエールが込められていると感ずる。講師にとっては学生がどんなことを考えているかに触れることのできるよい機会となっている。8年間の継続で、400名近くの大学生が「建築家の仕事」を受講したことになり、この積み重ねは貴重である。

鈴木 賢一 (JIA愛知)
名古屋市立大学



極私的稀覯本蔵書票3.

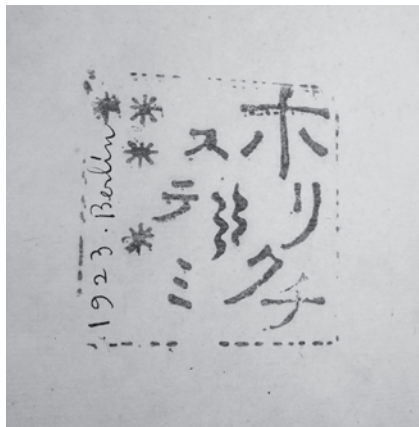
●MICHELANGELO / FRITZ Knap / F.Bruckmann A.G.München 1923 / p.101



●**主な内容** ミケランジェロの作品集。彫刻やデッサン、絵画、建築の写真と解説。

●**備考** 堀口捨巳の蔵書印あり。1923年にベルリンで購入したとみられる。

ページの余白などに作品の製作年や



ページと思われる数字の鉛筆での書き込みあり。

先輩の岡田信一郎が堀口も出品している分離派建築会作品展を観た後、会員に「彫刻を更に勉強すると良いと思う」との趣旨のアドバイスをした事が伝わる。この書籍購入と関連があるのかないのか想像が膨らむ。

(本稿は本誌2002年2月号の本欄の拙稿「極私的稀覯本蔵書票 分離派建築会作品集第三 千九百二十四年」に続くものです。)

池澤 邦仁 (JIA三重)
池澤アソシエイツ



NPO法人世界劇場会議名古屋の活動

本原稿の執筆時現在、2/28・29に開催の「世界劇場会議国際フォーラム2024in長久手」の準備の大詰めです。パネリストの方と掲載資料やプレゼンテーションデータの確認をしているところです。

今年のテーマは「劇場100年時代は来るのか～ハードとソフトの相関関係～」。

ユニークな活動を続けて25周年を迎える長久手市文化の家(設計:香山建築研究所)を検証した上で、舞台芸術家・劇場技術者・行政・建築設計者・コンサルタント・メーカー・研究者等、複数の分野の方による議論を繰り広げます。

開催に向けて、毎年春頃から実行委員会を立ち上げ、企画検討しています。その過程は非常に興味深いものであり、私自身とても勉強させてもらっています。委員

相互の丁々発止のやり取りは、フォーラム当日に負けず劣らず刺激的です。

かつて劇場・ホール建築が「ハコもの」「多目的ホールは無目的」と揶揄された時期がありました。現在整備される施設にそのような指摘は当てはまりません。どの館も開館後の運営に思いを巡らし、維持管理を十分に検討の上で建設されるようになっています。そこには先人諸氏の世界劇場会議におけるディスカッションが大いに貢献してきたことを記しておきます。

建築を如何に活かすか、という建築家の皆様にとって普遍的で有意義な議論が為されております。どうぞ次回ご参加くださいませ。お待ちしております。



細井 昭男 (JIA愛知)
ランドブレイン株式会社
都市造形研究所





南側から見た鎮守の社



西の山王鳥居



「奥の院」北側はマンションの壁

日吉神社は名東区役所の西隣、周囲の地盤から小高くなった丘の上にあります。

由緒書によると創建は不明とのことですが、元禄7年(1694)5月上社村覚書に「氏神山王権現の森 村より西北二当り云々」とあり、この頃にはすでにあったようです。また、古来から地域の氏神として崇敬され、「日吉山王さん」として親しまれています。このことは3カ所ある入口の内、東西2つの入口が山王鳥居であることからその

ルーツを探ることができますが、これに対して正面南の入口は明神鳥居で二の鳥居が朱塗りの両部鳥居というちょっと変わった構成になっています。ここから階段を上がると蕃塀、拜殿・本殿・社務所、さらに西隣には「金毘羅宮」「報國殿」「大山祇神社」「御嶽社」四社の立派な境内社があります。それだけでなく、さらに23基の朱鳥居をくぐり48段の階段を上った境内の頂きには御嶽神社から拝受された「神石」と「霊神碑」が

編集後記

●今月は、「一寸格子ワークショップ：猪高小学校建築教室」と名古屋市立大学で行われている「建築家の仕事」について報告が印象に残った。どちらもJIA所属の建築家によるボランティアで行われている活動である。JIAが社会的に果たすべき役割として建築の楽しさ、大切さを市民に伝えていくことがある。前者のワークショップでは、小学生には具体的にモノを使って空間を創ることの意味が伝わっていると嬉しい。モノを組み立てながら作っている形がモノ自体だけではなく空間であるということ、つまり建築や空間という概念が彼らの頭の片隅に残ってくれることを願う。このような活動に積極的に、継続的に関わって下さっている皆様の熱意には本当に頭が下がる。私自身も日ごろの

業務の忙しさを言い訳にせず、建築家として社会的責任を果たしていかなければと改めて感じた。(伊藤 恭行)

●今月号で2つの連載が幕を閉じました。ひとつは浅井裕雄さんによる表紙写真。JIA建築家大会2023東海が常滑で開催されることに因んで、常滑のまちの風景やそこで暮らす人の様子で表紙を飾って頂きました。最後は大会でも盛り上がった常石神社からの山車曳き「まつり」で締め。大会実行委員長として皆を引っ張った浅井さん、大会の準備から後始末までお忙しい中、1年間ありがとうございました。もっと大会の様子を見たいという方は、JIA東海のHPへぜひどうぞ。大変充実した写真や動画がリアルな大会を伝えます。もうひとつの連載、水谷晃啓さんによる「建築とデジタル技術の承前啓後」も最終回。丹下健三らに始まるデジタル技術の試行から、水谷

座す「奥の院」があるという大変神徳あたたかな神社です。

明治の地図を見ると神社の北・西は山林、南・東は田畑と集落が広がっていたようですが、現在は神社の周囲は宅地開発されて地盤が下がり、一層、社の社が際立っています。また、かつては「奥の院」から北東に霊峰御嶽山を望むことができたそうですが、現在は高層マンションに視界を遮られています。私の勤務先も窓から神社の社を眺められる場所にありますが、ふと日々の喧騒から離れたい時は参拝し、奥の院まで足を延ばすこともあります。相も変わらず、より郊外へと開発が進み続ける中で、こうした鎮守の社の大切さを実感する今日この頃です。

【概要】

所在地：愛知県名古屋市名東区上社2丁目45-1

創建：不明

祭神：大己貴神(おおなむちのかみ)

罔象女神(みつはのめのかみ)

大山咋神(おおやまくいのかみ)

URL：<https://hiyoshi.business.site>

アクセス：名古屋市営地下鉄東山線 上社駅から徒歩4分

本郷駅から徒歩5分

中澤 賢一 (JIA 愛知)

堀内建築研究所



さん自らが手がける最新のシミュレーションとデザインの連動による設計の試みまで、60年あまりの「承前啓後」を結びつける論考と実践を楽しく読ませて頂きました。ありがとうございました。(恒川 和久)

ARCHITECT

第426号

発行日 2024.3.1 (毎月1回発行)

発行責任者 大瀧正也

編集責任者 恒川和久

編集 東海支部会報委員会

愛知地域会プリテン委員会

株式会社イヅミ内

ARCHITECT 編集部

岡崎市明大寺町荒井10番地

TEL (0564) 21-2657 FAX 26-1792

発行所 (公社) 日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>

一寸格子ワークショップ: 猪高小学校 建築教室

猪高小学校への訪れも回数が増え、母校の次に親しみある小学校になってきました。(笑)しかしながら子供たちは毎回初めましてで、チームの個性も様々、毎回新鮮な出会いがあります。今回は久しぶりに1日目の事前授業から参加することが出来、チームの子供たちともより深くかかわることが出来ました。

ワークショップ当日は、模型がどの様に仕上がってくるのか毎回ドキドキしますが、今回のチームは事前授業からまとまりある印象が強く、模型もバランス良くまとまっています。大きな設計変更もなく順調に組みあがり、審査結果は見事「JIA大賞 金賞」を受賞しました。こんなとんとん拍子なことも有るのだなと感心しましたが、表彰式の後作品の前で再会した子供たちと、ハイタッチした時の目はキラキラでした。こんな瞬間がたまりません。ものづくりでの感動体験、その魅力をより多くの子供たちに体験してもらおう機会ができればと、岐阜での建築教育の可能性をひとり妄想してしまいます。

山田 浩史 (JIA岐阜)
ヒロプランニング



キャリア教育の一環としての建築教室。冒頭は「建築家って何する人？」から始まり、造形実習では1日目に割り箸を使っての個人ワークから、グループワークへ、2日目には割り箸の約9倍のサイズの杉材を使って立体を組み立てます。自分たちで考え組み立てた立体の中に入り、空間を体験することができます。子どもたちには、考える力を伸ばし、つくる楽しさや協力し合う大切さ、体験する楽しさを感じてもらうことを狙いとしています。学校側や保護者からも好評をいただき、猪高小学校では年中行事のひとつとなってきています。また子どもたちからは毎年感謝のこもった感想文集が送られてきて、私たちが次のワークショップに向かうパワーの源となっているように感じます。

この実習内容は中学生向けに、より高度な内容として展開できると考えています。猪高中学校では職業体験学習という枠があり、この枠を使って希望者向けに中学生版建築教室を行うことができそうです。前向きに検討していますので、サポーターの募集の際には是非ご協力ください。よろしくお願いします。

笹野 直之 (JIA愛知)
笹野空間設計



平成29年度から始まった猪高小学校の一寸格子ワークショップ。今年度は11月29日(1日事前授業)、12月13日(2日目実物大モデル作成)の2日間にわたり5年生97名を対象に開催しました。何を作ってもらおうか。平成23年東日本大震災の数年後にスタートしたこのワークショップは、6回にわたり「ひなん時の「くつろぎハウス」をつくろう」をテーマにしてきました。年が明けて令和6年能登半島沖大地震が元日に発生し、避難所での生活状況が日々報道され、参加した児童達もみていることと思います。避難所などの安全な場所に身を置けなかった時や準備されたプライベートスペースが足りない時に、「こんなことすれば、あんなことすれば。あれがあれば、あ、そうだこれ使おう。そうすれば屋根がかけられる!お隣さんと心理的に少し距離が置ける!」おこがましいですが、そんな知恵を植え付けられているとしたら幸いです。

小学生ですので「ひなん時の」に反応する作品は少なく「くつろぎハウス」に焦点が集まっている感がありますが、楽しみながらモノづくり体験をすることが、何かしら子供たちの未来に作用することを期待しています。JIA愛知地域会会員をはじめ、岐阜地域会、JSCA中部木質系部会、PTAの方々、多くの方に参加、ご協力頂きたいへんありがとうございました。

金山 美登利 (JIA愛知)
モヴ構造設計



名古屋市立猪高小学校建築教室に参加するのも今年で3回目になる。このイベントは20年以上前、子供会の役員以来の子供たちと触れ合う機会、一生懸命活動する子供たちの力を感じられる機会を楽しみにしている。

私のチームのテーマは、「のんびりクリスマスドーム」、2階建て、下は六角形平面で、上は四角錐と模型では形ができてはいるが、頭の中は?がいっぱいで焦る。時間は限られているのでまずは、お互いの服装をチェックし安全確認を行い、作業手順の話し合いを始める。

子供たちが上下担当分けして作業することを決め動き出したのでほっとしつつ、時間切れが怖かったので作っていく順番については多めに説明した。

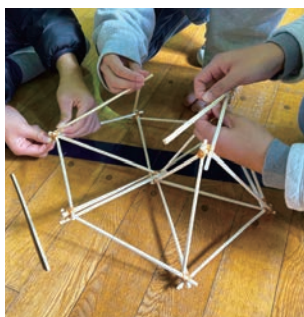
2階を載せるのは子供たちでは無理なので大人が支えながら作業したが、子供たちの奮闘で時間内に作ることができ、1階は広い六角形平面で上のドームを見上げる恰好いい建物ができ喜びを味わえた。

この後に、各チームの採点作業が待っている。どのチームも例年より広い空間とテーマに沿ったデザインを実現している。全作品を少し揺らしてみたらフレーム強度もしっかりした作品が多くびっぴりした。私は、2階建ての作品にちょっと多めに点数をいれたかな。

成田 靖司 (JSCA中部)
成建設計



～ひなん時の「くつろぎハウス」をつくろう～



金賞受賞チーム



銀賞受賞作品



銅賞受賞作品



金賞受賞作品

